

ゆめサロン

便り

令和 5年
8月 18日
No.538

失礼しています。



皆様お元気でいらしゃいますようか。長い間失礼しています。私この度倉敷に引越しまして、道具を持ち込むのに時間がかかりましたが今まで通り、サロン便りを作らせて頂きますので今後とも宜しくお願いいたします。まだ慣れないのでホームシックにかかったり足ぶみすることが多いのですが、がんを経験しても普通の生活をしていすというのをわかっていただきたために書いて行きたいと思ます。私がかかり重症のがんを経験したのですが、手術をして下さった先生とこれまでにかかわって下さった先生や薬剤師の先生のお陰で元気になることが出来ました。執刀してください

た先生が言われたことは、「いくら名医でも本人が治る気持ちは手助けするだけだからね」と言われたのです。

「私は治るんだ。年取るまで生きることが出来るんだ」と思いました。それから十七年、死ぬのを忘れたようです。この世を楽しんで生きています。今までかかわって下さった先生方に感謝しながら今日も生かせていただいています。

倉敷の生活



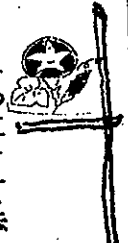
同じ中国地方です。そんなに変わったことではないだろう。と思っていました。まず違ったのが、カナカナゼミが鳴かないで「しゃあしゃあしゃあしゃあ」と大きな音でなく蝉がいることです。そして空気が乾燥しているのか、洗濯

物がすぐ乾きます。そして何といつても静かなことです。公園はあるけど誰も遊んでいません。それもそれは暑いからでしょう。私たち爺婆が歩き疲れて暑い公園の椅子に腰を下ろす位でしょう。そこらあたりの用水路に鴨が泳いでいます。黙っています。車が列をなして走りますが静かです。ヌートリアというものがいるそうです。猫の様なものでしょうか、早く見たいものです。

熱中症予防だと言ってクーラーの部屋で本を読んだりテレビを見たりしています。こんな生活をしていると歩けない人になるかもと心配しながら静かに生活しています。



知らない町ぞ



全く知らないところに来て歩き回って、道に迷ってそれでも歩いて・・・輝く夕日は西の空に沈もうとしているけれど暑い子供たちは勤めや子供のことで忙しくなっている今、近寄ってやりたい。と思いつながら勝手に来た町だけれど、住んでおられる方は暖かい。

私はこれこれに帰りたいけど道がわかりません。と、初老の男の人に夫がきいてくれると、自転車でおいかけて下さり一緒に探して下さい。嬉しい。

故郷のようにカナカナは鳴かない。暑そうにしゃあしゃあとなく蝉の声を聴きながら、五メートルくらい前を行く夫を追いかける。

知らない町に来て、ここでも温かい人に出会ってよかったと感謝する。



ゆめザロイン

便り

令和 5年
8月 20 日
No.539

暑い暑い 夏です。



連日の猛暑に体中ひからびそうですが、生きています。つてすこいですね。それに耐えていけるんですね。と言っても病んだ体にはこの暑さは厳しいですね。皆様お体は大丈夫ですか。涼しくしてお過ごしくださいませ。秋はすぐそこにきています。どんな秋が来るのでしょうか。これも楽しみです。



十七年前の

夏のわたくし



放射線を二十五回受けた後で抗がん剤を受け始めました。

ところが髪の毛が抜け始めました。これが話に聞いていた薬の副作用の脱毛なんだとわかりました。私にとっては大変です。思い切った夫の髭剃り機で全部剃ってみました。尼さん状態です。涼しいしすつきりました。

この頭を隠さなくては見られた方をびっくりさせるとどうしようと思いい、スカーフで巻いてみました。こうして生活することを始めました。男の方は楽だろうなあと思つたのですが夜は何もかぶらないで寝ると涼しかったことを思い出します。時々、たまった汗を拭うのですが何回か人に見られてお互い気まずい思いをしたことがあります。こうして暑い夏を切り抜けることが出来ました。でも今では多すぎる髪の毛に困つて

います。嬉しい悲鳴です。この抗がん剤を三年続けていたから今があるのかもしれない。今不自由なのは、膝から下がしびれていることです。でも、命と引き換えだから我慢しています。これはあの世まで持つて行くのかと思います。

せみ



こちらにきた頃は、しゃあしやあ、と毎日賑やかに蝉が鳴いていたのですが、最近は何にも鳴かなくなりました。

(どんな色なんでしょう、色はどんな色なんでしょう)といつも思っていたのだが或る日、網戸の外側に長い間、じいっと止まって姿を見せてくれたのです。やつぱり倉敷に住むものは蟬まで優しいねえと私は喜んでいました。

ところが、二、三日経った日、庭に下りて草抜きをしていますと、この前網戸にいた蟬らしきものがコロンと転がっていたのです。死ぬ前に私に姿を見せてくれたんだと知りました。ありがとう。とそっと拝んでやりました。

ノルディックストック



私の夫も六年前に癌を患いました。二人そろって癌を経験したのです。胃癌でした。歩くことの好きな夫は癌になるより前は、朝早くからノルディックストックを歩いて歩いていました。そんな夫も癌とともに歩くことをやめてしまったのです。

今回倉敷に来て部屋の中でのマシンを買いました。一週間先にはその機械が届く事を楽しみに帰ってみるとなんと名古屋に住む息子からノルディックストックがおくられてきていました。新しくできたお友達に散歩コースを習ったらしいねと添えてありました。夕日が沈むころに。

ゆめサロン

便り

令和 5年
8月 30日
No.540

今日も

暑いですね。



青い空に所々真綿の様な白い雲が浮かんでいます。

暑いですが。皆様その後お変わりはありませんか。

今故郷は秋の虫が鳴き始めたころではないでしょうか。

秋来ぬと目には目にはさやかに見えねども風の音にぞ

おどろかれぬる

といううたが思いだされます。でも、暑い暑いといいますが、朝早く

ユミだじに行くとき、かすかにこおるぎのなきこえがしますとほっとします。秋もすぐそこにきています。



皆様

お元気ですか。



このところ、出かけるといえは買い物か病院になっていきます。そこでいろいろな人間模様を観察させて貰っています。今感じる事は男性が優しいということです。一人で買い物をする人、女の人を車椅子にのせて押している人、それぞれです。

そういえば何年前ですが私の夫の上司の奥様が足の手術後、旦那様に車椅子に載せてもらって山口の美術館に行かれた話を思い出しました。もっと見たいの思いだしました。もっと見たいの思いの短い旦那様は、速足でさつさと通り過ぎられて終わりだったそうです。奥様はさぞ不完全燃焼の思いだったことでしょう。でも、私だったら座った心地はしなかったと思います。でもまあ奥様は華奢な方だからさまになるけど、私なら夫が可哀想にみえるだろうなああと、笑いがこみあげるのを我慢する私です。

方向音痴



知らないところに来て方向音痴は困ったものです。それが夫はのみ込みが早いというのか地図を買ってきて一度見たらもうわかっているらしいのですが私はそうはいきません。「どこへ行くの?」「帰る」「あそこに西松屋がある」「用事があるの?」「そんなわけないじゃ、そこをみぎにまわるんよ」「そいじゃ帰れんじや」

なんにもわからないのに文句だけはいう私をよそに、家に着いていました。こん度は黙って居ようと思うのにいらんことをいう私：反省しています。



どうにかわれは

何でも確認してかたりかかることの大切さを痛感しました。かかりつけのお医者様に診て頂く日が来ました。午前は患者様が多いだろうからと午後いくことにきめた私は勝手に三時からと思いい運動方々歩いて出かけた。ところが、意外に近くて二時半にはついてしまいました。玄関を見ると三時半からと書いてあります。折角来たのだからと一時間待つことにして、色んな観察をして過ごしました。意外に早く時は過ぎ病院はあいたのですが金曜と土曜は発熱外来の日だったので。この年になって確認の足りなかつたことを反省したところです。コロナはまだあるようです。お大事になさってください。

